

講義要綱

2025年度

夜間課程 1学年

学年担任 奥平 貴仁



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目 次

夜間課程 単位表	4
夜間課程 1学年	
医学英語 I	5
情報科学・プレゼンテーション	6
医療の歴史と倫理	7
理学療法の職域と位置付け	8
心理	9
人間関係・コミュニケーション論 I	10
保健体育 I	11
公衆衛生	12
人体の構造と機能 総論	13
人体の構造と機能 各論Ⅰ(神経系の構造)	14
人体の構造と機能 各論Ⅱ(神経系の機能)	15
人体の構造と機能 各論Ⅲ(運動器系の構造)	16
人体の構造と機能 各論Ⅳ(運動器系の機能)	17
人体の構造と機能 各論Ⅴ(内臓諸器官の構造)	18
人体の構造と機能 各論Ⅵ(内臓諸器官の機能)	19
人体の構造と機能 演習(表面解剖)	20
運動学Ⅰ(四肢体幹の運動)	21
運動学Ⅱ(姿勢と動作)	22
運動学Ⅲ(運動生理・運動学習)	23
運動学演習	24
人間発達	25
疾病・病態論	26
地域保健福祉論	27
リハビリテーション概論	28
理学療法概論	29
障害と理学療法手法	30
理学療法評価概論	31
理学療法評価Ⅰ	32
理学療法評価Ⅱ	33
運動療法Ⅰ	34
理学療法総合理解Ⅰ	35
総合理学療法Ⅰ	36
基本動作支援技術	37
臨床実習Ⅰ	38

医療専門課程理学療法学科（夜間課程）

	科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数
				単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間		
基礎分野	科学的思考の基盤	医学英語Ⅰ	講義	1	16					1	16
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30
		医療統計	講義					1	16	1	16
		人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16
		関連法規	講義					1	16	1	16
		理学療法の領域と位置付け	講義	1	16					1	16
		心理	講義	1	16					1	16
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	1	30					1	30
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	16			1	16
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30
		保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16
	社会の理解	公衆衛生	講義	1	16					1	16
	基礎合計			8	170	2	32	4	64	14	266
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓諸器官の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓諸器官の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48
		運動学Ⅰ（四肢体幹の運動）	講義	3	48					3	48
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30
		運動学演習	演習	1	30					1	30
		人間発達	講義	1	16					1	16
		（小計）		17	412	0	0	0	0	17	412
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30
		臨床心理	講義			1	16			1	16
		病理	講義			1	16			1	16
		内科と理学療法	講義			1	30			1	30
		老年障害と理学療法	講義			1	16			1	16
		整形外科と理学療法	講義			3	48			3	48
		神経内科と理学療法	講義			3	48			3	48
		精神医学と理学療法	講義					2	30	2	30
		小児科と理学療法	講義					1	16	1	16
		一般臨床医学と理学療法	講義			1	30			1	30
		（小計）		1	30	11	204	3	46	15	280
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30
		（小計）		2	32	0	0	2	30	4	62
	専門基礎分野合計			20	474	11	204	5	76	36	754
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
		障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
		臨床運動学	演習			1	30			1	30
		理学療法研究法	講義			2	30			2	30
		（小計）		3	60	3	60	0	0	6	120
	理学療法管理学	理学療法管理学	講義					2	30	2	30
		（小計）		0	0	0	0	2	30	2	30
	理学療法評価学	理学療法評価概論	講義	1	16					1	16
		理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44
		理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44
		理学療法評価Ⅲ	演習			1	30			1	30
		理学療法評価Ⅳ	演習			1	30			1	30
		理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44
		（小計）		3	104	2	60	1	44	6	208
	理学療法治療学	運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30
		運動療法Ⅱ	演習			2	30			2	30
		運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30
		物理療法	演習			1	30			1	30
		日常生活活動	講義			1	30			1	30
		日常生活活動演習	演習					3	48	3	48
		装具学	講義			1	30			1	30
		義肢学	講義					1	30	1	30
		疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）	演習					3	48	3	48
		疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）	講義					1	16	1	16
		理学療法演習	実習					1	44	1	44
		理学療法総合理解Ⅰ	演習	1	30					1	30
		理学療法総合理解Ⅱ	演習			1	16			1	16
		理学療法総合理解Ⅲ	演習					1	16	1	16
		理学療法特論	演習					2	60	2	60
		総合理学療法Ⅰ	実習	1	30					1	30
		総合理学療法Ⅱ	実習			1	30			1	30
		総合理学療法Ⅲ	実習					1	44	1	44
		総合理学療法Ⅳ	演習					1	30	1	30
		（小計）		3	90	16	310	15	366	34	766
	地域理学療法	基本動作支援技術	演習	1	30					1	30
		地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30
		生活環境論	講義					1	16	1	16
		（小計）		1	30	1	30	1	16	3	76
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405
		臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405
		（小計）		1	45	10	450	9	405	20	900
	専門分野合計			11	329	32	910	28	861	71	2100
必修科目授業合計			39	973	45	1146	37	1001	121	3120	
選択科目授業合計				0		0		0		0	
卒業に必要な総授業時間数			39	973	45	1146	37	1001	121	3120	

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	医学英語 I	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	奥平 貴仁	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

基礎的な医学用語(筋骨格系、運動方向等の運動学関係、接頭語・接尾語、他)について学習する。

II 到達目標

基礎的な医学用語について、日本語名と英語名を一致させることができる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	医学英語の語源と接頭語・接尾語
3	骨の名称
4	筋の名称
5	動作の表現(運動の面と軸、運動方向、姿勢、他)
6	リハビリテーションチーム、カルテ等に使われる略語
7	理学療法に用いられる用語(疾患名、障害名)
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	情報科学・プレゼンテーション	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

情報の取り扱い(情報化社会、個人情報保護等)、基本的なパソコン操作(文書ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等)について習得する。
プレゼンテーションの手法について学習する。

II 到達目標

情報の取り扱いの注意点について説明できる。
上記のソフトを使用して、基本的な書類を作成できる。
簡単なプレゼンテーションが実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	情報とは:個人情報の取り扱いについて
2	OSとは:PCの諸設定、フォルダの操作、電子メール(仕組みと設定)
3	情報の形とまとめ方:基本的PC操作
4	情報リテラシー(情報機器、ITネットワークの活用)、情報社会のモラルとセキュリティ
5	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 1
6	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 2
7	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 3
8	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 1
9	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 2
10	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 3
11	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 4
12	文献とは:文献検索の方法
13	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 1
14	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 2
15	まとめ

IV 成績評価

授業内演習、課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	医療の歴史と倫理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について学習する。

II 到達目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 倫理学とは
2	医療倫理の起源
3	医療倫理の原則①
4	医療倫理の原則②
5	理学療法士法
6	理学療法士における倫理①
7	理学療法士における倫理②
8	理学療法士における倫理③

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法の職域と位置付け	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

理学療法の使命、職域および他のリハビリテーション職種の職域、リハビリテーション医療におけるチームアプローチについて学習する。

II 到達目標

理学療法、作業療法、言語聴覚療法およびリハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション ①総論 ②理学療法(士) ③関連職種1
2	関連職種2
3	理学療法の職域とチームアプローチ
4	医療保険における理学療法士の役割
5	介護保険における理学療法士の役割
6	その他分野における理学療法士の役割
7	独立起業
8	その他(研究・教育)

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について学習する。

II 到達目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 心理学とは
2	心理学の歴史
3	感覚と知覚
4	記憶(短期・長期・手続き記憶・エピソード記憶・意味記憶・作業記憶)
5	防衛機制・転移
6	パーソナリティ
7	発達段階の心理、ライフサイクル
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント
リハベーシック 心理学・臨床心理学第2版(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人間関係・コミュニケーション論 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	奥平 貴仁 他	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

社会人、医療従事者になるために必要な心構えや学業へ取り組む姿勢を考え、身につける。またクラスの人間関係づくりを進め、学校生活への適応を図る。

II 到達目標

自己理解、他者理解の基本を理解し、他者との関係をどのように構築したらよいか説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 人間関係とは
2	人間の心理 パーソナルスペースの使い方
3	人間関係と医療現場 コミュニケーションとは 1
4	人間関係と医療現場 コミュニケーションとは 2
5	コミュニケーション(話し方・聴き方) 1
6	コミュニケーション(話し方・聴き方) 2
7	人間関係・コミュニケーション演習①
8	人間関係・コミュニケーション演習②
9	人間関係・コミュニケーション演習③
10	人間関係・コミュニケーション演習④
11	人間関係・コミュニケーション演習⑤
12	人間関係・コミュニケーション演習⑥
13	人間関係・コミュニケーション演習⑦
14	人間関係・コミュニケーション演習⑧
15	メンタルヘルス

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	保健体育 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	奥平 貴仁 他	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

グループ活動の実践を通して、心身の健康、主体的な行動、計画性、グループとしての連帯性について学習する。

II 到達目標

グループ活動を実践し、グループのメンバーと連帯して行動できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション(全体の流れ)
2	保健体育演習 I -1
3	保健体育演習 I -2
4	保健体育演習 I -3
5	保健体育演習 I -4
6	保健体育演習 II -1
7	保健体育演習 II -2
8	保健体育演習 II -3
9	保健体育演習 II -4
10	保健体育演習 III -1
11	保健体育演習 III -2
12	保健体育演習 III -3
13	保健体育演習 III -4
14	保健体育演習 III -5
15	保健体育演習 III -6

IV 成績評価

課題レポートにより評価する

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	公衆衛生	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

社会環境や社会制度との関係を意識し、社会と理学療法との関係について学修する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、公衆衛生とは
2	予防と健康管理
3	感染症(概要・感染経路)
4	感染症(分類・関連法規)
5	感染症(予防策演習)
6	生活習慣
7	労働衛生
8	精神衛生

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 総論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

人体の解剖および生理的仕組みの基礎について学習する。
人体の発生および細胞の成り立ちについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 解剖学・生理学とは
2	感覚器について
3	脳と神経について
4	消化器について
5	呼吸器について
6	循環器について
7	運動器について①
8	運動器について②
9	前半のまとめ
10	細胞小器官
11	細胞の種類と機能
12	代謝、生体内の化学反応
13	遺伝① 細胞分裂と発生
14	遺伝② 染色体、遺伝子
15	後半のまとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅰ (神経系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

中枢神経系の構造と機能について学習する。
感覚諸器官(皮膚を含む)の構造について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	細胞の構造、三杯葉から形成される器官
2	神経とは ニューロンの構造、シナプス
3	中枢神経と末梢神経の違い、神経支配の階層性
4	細胞膜電位、活動電位、筋収縮の仕組み
5	脊髄 脊髄の構造と機能
6	脳幹 延髄、橋、中脳の構造と機能
7	間脳の構造と機能(視床、視床下部、下垂体)
8	小脳の構造と機能
9	大脳の構造と機能①(大脳皮質、連合野、皮質下白質)
10	大脳の構造と機能②(大脳基底核)
11	大脳の構造と機能③(大脳辺縁系)
12	運動系の伝導路、感覚系の伝導路
13	脳脊髄液の循環 Willis動脈輪
14	感覚器①特殊感覚器の構造(視覚、嗅覚)皮膚の構造
15	感覚器②特殊感覚器の構造(聴覚、味覚)、皮膚の構造

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅱ (神経系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

末梢神経系の構造と機能について学習する。
感覚諸器官(皮膚を含む)の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	中枢神経と末梢神経の働き
2	脳神経① I 嗅神経～Ⅵ 外転神経
3	脳神経② Ⅶ 顔面神経～Ⅻ 舌下神経
4	脊髄神経① 頸神経叢、腕神経叢
5	脊髄神経② 腰神経叢、仙骨神経叢
6	脊髄神経③ 体肢、髄節
7	自律神経 交感神経①
8	自律神経 交感神経②
9	自律神経 副交感神経①
10	自律神経 副交感神経②
11	感覚器① 皮膚の構造と感覚受容器 体性感覚の構造と機能
12	感覚器② 特殊感覚器の構造と機能(嗅覚、視覚)
13	感覚器③ 特殊感覚器の構造と機能(聴覚、平衡覚、味覚)
14	神経線維の構造と機能 伝導と伝達、活動電位
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅲ (運動器系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

運動器(骨格系、筋系)の構造について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動器の概観 運動器の構成要素、関節運動におけるテコの作用、全身の骨格(名称)
2	骨の構造 組織構造、骨吸収と骨形成、Ca代謝、P吸収
3	骨量と運動、骨の成長・維持と修復、骨粗鬆症
4	骨の連結と運動 骨の連結、関節の構造、関節の形状、関節運動
5	上肢(1) 上肢帯、上腕骨と肩関節
6	上肢(2) 肘関節 前腕の骨と3つの関節
7	上肢(3) 手関節と手部、手根骨～指骨
8	上肢(4) まとめ
9	体幹(1) 脊柱の構造
10	体幹(2) 胸郭の構造
11	体幹(3) 頭蓋の構造
12	下肢(1) 下肢帯、大腿骨と股関節
13	下肢(2) 膝関節、下腿の骨
14	下肢(3) 足関節と足部、足根骨～趾骨、足弓
15	下肢(4) まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅳ (運動器系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	安岡 裕輔	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

運動器の機能(筋収縮のメカニズム、筋の神経支配を含む)について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	筋の概要
2	筋の構造 骨格筋と平滑筋
3	筋の機能 赤筋と白筋
4	骨格筋の微細構造と収縮メカニズム
5	筋の収縮様式と運動単位
6	上肢帯(肩甲帯、肩関節) 作用する筋と運動
7	肘関節 作用する筋と運動
8	手・手関節 作用する筋と運動
9	上肢のまとめ
10	下肢帯(股関節) 作用する筋と運動
11	膝関節 作用する筋と運動
12	足・足関節 作用する筋と運動
13	下肢のまとめ
14	体幹・脊柱と胸郭の筋
15	頭部・顔面の筋

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第3版(医歯薬出版) 人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅴ (内臓諸器官の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

内臓諸器官(主に循環器系、呼吸器系、および血液系)の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器の構造1
2	呼吸器の構造2
3	呼吸器の機能1
4	呼吸器の機能2
5	呼吸器の機能3
6	循環器の構造1
7	循環器の構造2
8	循環器の構造3
9	循環器の機能1
10	循環器の機能2
11	循環器の機能3
12	リンパ系の構造
13	リンパ系の機能
14	血液系の構造と機能
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅵ (内臓諸器官の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

消化器、ホルモン、生殖器、肝臓とその他の臓器の構造と構造に関連した生理機能に関する学習を行う。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	消化管の構造
2	消化管の機能1
3	消化管の機能2
4	肝臓・胆嚢の構造
5	肝臓・胆嚢の機能
6	膵臓の構造と機能
7	腎臓の構造
8	腎臓の機能1
9	腎臓の機能2
10	生殖器の構造
11	生殖器の機能
12	免疫系の構造と機能
13	内分泌の構造
14	内分泌の機能
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 演習 (表面解剖)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

学習した人体の構造と機能について、骨指標、筋、血管、神経等を体表から観察、触察し再学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

基本的な骨指標、筋、血管、神経等を触察できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論、臨床的意義、触診の基礎 注意点・触診方法	16	体幹株の筋
2	肩甲骨・上腕骨・鎖骨	17	上肢の靱帯・動脈等
3	主要な骨指標の触診1 上肢帯・上肢①	18	下肢の靱帯・動脈等
4	主要な骨指標の触診2 上肢帯・上肢②	19	MMTと筋の触診(上肢)
5	主要な骨指標の触診3 下肢帯・下肢①	20	MMTと筋の触診(下肢)
6	主要な骨指標の触診4 下肢帯・下肢②	21	MMTと筋の触診(体幹)
7	主要な骨指標の触診5 脊柱・手部・足部	22	上肢 触察のまとめ
8	上肢帯の筋	23	下肢 触察のまとめ
9	肩関節周囲の筋	24	体幹 触察のまとめ
10	肘関節・前腕の筋		
11	手部の筋 まとめ(体幹・上肢)		
12	股関節に作用する筋		
13	膝関節に作用する筋		
14	足関節に作用する筋		
15	体幹上部の筋		

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
【改訂第6版】ボディナビゲーション(医道の日本社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学Ⅰ (四肢体幹の運動)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

関節の種類と構成要素、関節運動のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論(運動学とは)、運動学の基礎	16	脊柱の筋と運動(2)
2	関節の運動(構造と機能)	17	頸椎・胸椎の筋と運動、胸郭の筋と運動
3	上肢帯と肩関節の筋と運動(1)	18	腰椎の筋と運動(1)
4	上肢帯と肩関節の筋と運動(2)	19	腰椎の筋と運動(2)
5	肘関節と前腕の筋と運動	20	頭部・頸部の筋と運動(1)
6	手関節の筋と運動	21	頭部・頸部の筋と運動(2)
7	手指の筋と運動(1)	22	関節の副運動、凹凸の法則
8	手指の筋と運動(2)	23	歩行の基礎
9	下肢帯と股関節の筋と運動(1)	24	まとめ
10	下肢帯と股関節の筋と運動(2)		
11	膝関節の筋と運動(1)		
12	膝関節の筋と運動(2)		
13	足関節の筋と運動(1)		
14	足関節の筋と運動(2)		
15	脊柱の筋と運動(1)		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第7版(医歯薬出版)

配布資料

参考資料: 身体運動学 関節の制御機構と筋機能(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学Ⅱ (姿勢と動作)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	奥平 貴仁	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

基本動作のメカニズム、姿勢制御・運動制御のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢 姿勢制御
2	背臥位姿勢
3	座位姿勢
4	立位姿勢(1)
5	立位姿勢(2)
6	体圧分散測定:背臥位、座位、立位
7	体圧分散測定:背臥位、座位、立位
8	姿勢と重心
9	基本動作のシーケンス
10	寝返り動作
11	起き上がり動作
12	立ち上がり動作
13	歩行(1)
14	歩行(2)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学Ⅲ (運動生理・運動学習)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

運動時における生体反応およびエネルギー代謝、摂食嚥下のメカニズム、運動処方基礎、運動学習の理論と過程について学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動生理とは 呼吸・循環・代謝の関係性
2	運動と呼吸機能
3	運動と循環機能
4	運動と栄養① 消化と吸収
5	運動と栄養② 栄養素
6	運動とエネルギー代謝① ATP産生、呼吸商
7	運動とエネルギー代謝② 基礎代謝、エネルギー代謝率
8	運動とエネルギー代謝③ 代謝当量
9	運動処方① 体力とは 無酸素性エネルギー
10	運動処方② 有酸素性エネルギー、運動処方
11	運動負荷試験
12	自覚的運動強度、運動訓練の原理
13	運動技能と運動学習①
14	運動技能と運動学習②
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学演習	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行 他	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

人体の構造と機能、運動学Ⅰ～Ⅲで学習した内容について、実験的考察を踏まえ再学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の内容について実験的考察を行い、説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	心電図1
2	心電図2
3	エネルギー代謝1
4	エネルギー代謝2
5	運動処方1
6	運動処方2
7	運動処方3
8	運動処方4
9	演習1
10	演習2
11	演習3
12	演習4
13	演習5
14	演習6
15	演習7

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人間発達	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

ライフステージを通じた人間理解のため、胎児期～老年期の発達過程について学習する。

II 到達目標

各ライフステージにおける発達過程について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	身体的発達
3	反射・反応(1)
4	反射・反応(2)
5	反射・反応(3)
6	粗大運動・巧緻運動
7	精神的・知的発達
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	疾病・病態論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

リハビリテーション・理学療法の対象となる疾病の成り立ちおよび病態の概要について学習する。

II 到達目標

学習した疾病について、疾病の成り立ちおよび病態の概要を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	脳血管障害(概要)
2	脳血管障害(症状・高次脳機能障害)
3	脳血管障害(リハビリテーション)
4	脳挫傷・脳性麻痺
5	脊髄損傷・二分脊椎
6	神経・筋疾患① (パーキンソン病、パーキンソン症候群)
7	神経・筋疾患② (脊髄小脳変性症、多発性硬化症)
8	神経・筋疾患③(筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー)
9	末梢神経障害
10	認知症
11	骨関節疾患1(骨折・切断)
12	骨関節疾患2(変形性関節症・関節リウマチ)
13	呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患
14	呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患
15	慢性疼痛、熱傷、癌、外科手術後

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	地域保健福祉論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

社会保障制度の種類と歴史、医療・保健・福祉とリハビリテーションの関係、地域包括ケアシステム、多職種連携等について学習する。

II 到達目標

上記内容について理解し、地域におけるリハビリテーションの役割について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	社会保障の概念、社会保障の歴史、福祉六法
2	介護保険制度、社会福祉援助技術(ケースワーク)
3	介護老人保健施設、介護療養型医療施設、通所施設
4	地域と理学療法の関係、地域包括ケアシステム
5	医療・保健・福祉とリハビリテーション、チーム医療
6	在宅生活の継続を支援する(通所施設、訪問理学療法)、入所施設の重要性・援助関係
7	エンパワーメント、地域リハビリテーションの対象、地域・在宅で普通の生活を送る方法
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	リハビリテーション概論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

理学療法士として、リハビリテーションの概念を学び障害のとらえ方を理解して欲しいと思います。そして、理学療法士としての基礎を培って頂きたいと思います。

II 到達目標

リハビリテーション、理学療法士について説明ができるようになって頂きたいと思います。また、医療専門職として対象者を“支える”思考の基礎が少しでも身につけられる事を期待しています。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、リハビリテーションとは(考え方の変遷)
2	総合リハビリテーション(医学的・教育的・職業的・社会的・その他)
3	地域リハビリテーション(住み慣れた地域でその人らしく生きる)
4	医学的リハビリテーション(超急性期・急性期・回復期・維持期)
5	理学療法(物理療法・運動療法)と理学療法士
6	障害とその分類①(ICD・ICIDH)
7	障害とその分類②(ICF)、医療記録(POMR)
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	奥平 貴仁 他	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

理学療法の概要、役割、過程、職能等について、臨床場面を想定して学習する。
理学療法士を目指す学生としてふさわしい基本的な態度について考察する。

II 到達目標

上記内容に対して体験を通して理学療法について理解を深める。
臨床実習を想定し理学療法士を目指す学生としてふさわしい態度・行動を取れる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	理学療法の過程と臨床実習
3	理学療法の生涯学習
4	理学療法治療介入見学時の心構え
5	理学療法士の心構え
6	理学療法で使用する機器について1
7	理学療法で使用する機器について2
8	機器から学ぶ理学療法1
9	機器から学ぶ理学療法2
10	機器から学ぶ理学療法3
11	機器から学ぶ理学療法4
12	理学療法臨床推論1
13	理学療法臨床推論2
14	理学療法臨床推論3
15	理学療法臨床推論4

IV 成績評価

授業内演習、課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	障害と理学療法手法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	渡邊 孝広	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

理学療法の対象となる機能障害の病態・メカニズムと理学療法の関係について学習する。
理学療法手法の概要について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢制御1
2	姿勢制御2
3	姿勢制御 3
4	歩行1
5	歩行2
6	スポーツリハビリテーション1
7	スポーツリハビリテーション2
8	運動学習1
9	運動学習2
10	関節運動1
11	関節運動2
12	筋収縮と筋力1
13	筋収縮と筋力2
14	持久力
15	運動療法概論

IV 成績評価

課題レポートおよび学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価概論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

理学療法評価の基礎(評価過程、記録方法等)を学習する。
バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸数等)の確認方法を習得する。

II 到達目標

理学療法評価の過程、記載方法について説明できる。
バイタルサインが確認できる。

III 学習内容(シラバス)

1	評価の意義・目的
2	観察・情報収集について
3	検査・測定について
4	統合と解釈(情報の整理)
5	バイタルサイン 演習1
6	バイタルサイン 演習2
7	バイタルサイン 演習3
8	バイタルサイン 演習4

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価Ⅰ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	奥平 貴仁 他	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

機能形態計測(四肢長、周径等)を習得する。
関節可動域制限と関連要因に対する評価を習得する。
疼痛(急性痛、慢性疼痛)に対する評価を習得する。

II 到達目標

機能形態計測、関節可動域測定、疼痛に関する評価について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	関節可動域測定⑩
2	検査測定の進め方	17	痛みの評価
3	四肢長・周径①	18	脳神経検査①
4	四肢長・周径②	19	脳神経検査②
5	四肢長・周径③	20	脳神経検査③
6	四肢長・周径④	21	脳神経検査④
7	関節可動域測定①	22	まとめ
8	関節可動域測定②		
9	関節可動域測定③		
10	関節可動域測定④		
11	関節可動域測定⑤		
12	関節可動域測定⑥		
13	関節可動域測定⑦		
14	関節可動域測定⑧		
15	関節可動域測定⑨		

IV 成績評価

学力試験(筆記試験70点分および実技試験30点分の合算)により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価Ⅱ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

神経学的所見(反射異常、筋緊張異常等)に対する評価を習得する。
筋力低下に対する評価を習得する。
感覚異常に対する評価を習得する。

II 到達目標

反射検査、筋緊張検査、筋力検査、感覚検査について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	徒手筋力検査⑦
2	深部腱反射・病的反射検査①	17	徒手筋力検査⑧
3	深部腱反射・病的反射検査②	18	徒手筋力検査⑨
4	深部腱反射・病的反射検査③	19	徒手筋力検査⑩
5	筋緊張検査①	20	徒手筋力検査⑪
6	筋緊張検査②	21	検査測定手順 演習
7	感覚検査①	22	まとめ
8	感覚検査②		
9	感覚検査③		
10	徒手筋力検査①		
11	徒手筋力検査②		
12	徒手筋力検査③		
13	徒手筋力検査④		
14	徒手筋力検査⑤		
15	徒手筋力検査⑥		

IV 成績評価

学力試験(筆記試験70点分および実技試験30点分の合算)により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)
新・徒手筋力検査法 原著第10版(エルゼビア・ジャパン)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動療法 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

関節可動域制限に対する運動療法を習得する。
筋力低下に対する運動療法を習得する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

関節可動域運動を説明、実践できる。
筋力増強運動を説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動療法の歴史・概念・位置付け
2	運動療法の種類と適応、組織の病態生理と修復
3	関節可動域運動 1 関節の構造と運動、関節運動の制限、拘縮と強直
4	関節可動域運動 2 上肢帯・肩関節
5	関節可動域運動 3 肘関節・前腕・手関節
6	関節可動域運動 4 股関節・膝関節
7	関節可動域運動 5 足関節・足部・体幹
8	関節可動域運動 6 器具を用いた方法
9	筋力維持増強運動 1 筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋線維の分類
10	筋力維持増強運動 2 筋肥大のメカニズム、過負荷の法則、OKCとCKC
11	筋力維持増強運動 3 上肢
12	筋力維持増強運動 4 下肢
13	筋力維持増強運動 5 体幹
14	筋力維持増強運動 6 器具を用いた方法
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法総合理解 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

3年間の学習の流れや1年次に学習する基礎分野について理解する。

II 到達目標

人体の正常構造、機能を理解するとともに異常についても理解を深める。
理学療法に必要な基礎知識を理解し、各科目の要点を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション1(学びの全体像)
2	オリエンテーション2(学習の進め方)
3	基礎医学1 1年生上半期の学習①
4	基礎医学2 1年生上半期の学習②
5	理学療法士としての疾病や障害の理解1
6	理学療法士としての疾病や障害の理解2
7	演習1
8	演習2
9	基礎医学3 1年生下半期の学習①
10	基礎医学4 1年生下半期の学習②
11	国家試験について1
12	国家試験について2
13	国家試験について3
14	まとめ1(2年次の学習に向けて)
15	まとめ2(2年次の学習に向けて)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント等

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	総合理学療法 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

臨床実習 I の事前・事後学習として1年次の学習内容を深める。
臨床での理学療法の具体的な手順と方法を学習する。

II 到達目標

臨床実習 I に必要な事前準備が実践できる。
臨床実習 I での体験を基に臨床での理学療法の進め方を具体的に説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 臨床実習について 臨床実習に必要な接遇
2	理学療法の処方から治療までの流れ
3	情報収集について①(基礎情報・医学的情報情報・社会的情報)
4	他部門の専門性と情報収集
5	医療面接について
6	理学療法検査測定について
7	統合と解釈 問題点抽出(ICF、ICIDH)について
8	目標設定 理学療法治療介入計画立案について
9	学生紹介書の作成について
10	臨床実習 I 手引きの理解と実習計画について
11	実習課題について ①デیلیーノート ②実習内容報告書(レポート)
12	臨床実習 I 実習内容発表会①
13	臨床実習 I 実習内容発表会②
14	臨床実習 I 実習内容発表会③
15	臨床実習 I 実習内容発表会④

IV 成績評価

課題レポートおよび発表により評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)
理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	基本動作支援技術	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	岡村 洋克	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

起居・移動・移乗動作の基礎、介助方法、動作を引き出す方法について学習する。

II 到達目標

動作の基礎を理解し、基本的な介助方法が実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	基本動作介助法1 姿勢(体位と構え)とは、基本動作とは、介助の心得、介助と介護の違い
2	基本動作介助法2 寝返り
3	基本動作介助法3 起き上がり
4	基本動作介助法4 端座位、靴の着脱、座位からの立ち上がり
5	基本動作介助法5 床からの立ち上がり
6	基本動作介助法6 立位
7	移乗動作介助法1 車椅子への移乗、ステップ動作あり・なし
8	移乗動作介助法2 一部介助から全介助
9	移乗動作介助法3 疾患(片麻痺、大腿骨頸部骨折)を想定した介助
10	歩行介助法1 杖の種類・選定・調節方法、短下肢装具(AFO)の装着介助
11	歩行介助法2 前方・後方・側方介助の方法
12	歩行介助法3 階段(段差)昇降の介助
13	車椅子介助法1 車椅子の名称・種類、メンテナンスや調整方法
14	車椅子介助法2 走行介助(平地、段差、スロープ・坂道、エレベーター乗車)
15	車椅子介助法3 車椅子座位姿勢の修正介助(ずり落ち、傾斜姿勢)

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	臨床実習 I	単位・時間数	1単位・45時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療施設等において理学療法介入を見学し、理学療法についての理解を深める。
対象者との接遇について体験を通して学習する。

II 到達目標

理学療法介入見学について記録を作成できる。
対象者との接遇について注意点および工夫を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

学校が指定した医療機関等で5日間の見学実習を行う。

※詳細は臨床実習 I 手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、デイリーノート、見学・体験報告書等を総合的に判断して評価する。

V 教科書・その他

臨床実習 I 手引き

【メモ】

学校法人医学アカデミー

医学アカデミー 理学療法学科

〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1丁目18番地1

TEL. 049-245-6853(教務直通)

e-mail. info@iapt.igakuacademy.ac.jp

講義要綱

2025年度

夜間課程 2学年

学年担任 杉田 貴寛



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目 次

夜間課程 単位表		4
夜間課程 2学年		
人間関係・コミュニケーション論 II		5
保健体育 II		6
臨床心理		7
病理		8
内科と理学療法		9
老年期障害と理学療法		10
整形外科と理学療法		11
神経内科と理学療法		12
一般臨床医学と理学療法		13
臨床運動学		14
理学療法研究法		15
理学療法評価Ⅲ		16
理学療法評価Ⅳ		17
運動療法 II		18
物理療法		19
日常生活活動		20
装具学		21
疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）		22
疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）		23
疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）		24
理学療法総合理解Ⅱ		25
総合理学療法Ⅱ		26
地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）		27
臨床実習Ⅱ		28
臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）		29

医療専門課程理学療法学科（夜間課程）

	科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数	
				単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間			
基礎分野	科学的思考の基盤	医学英語Ⅰ	講義	1	16					1	16	
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16	
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30	
		医療統計	講義					1	16	1	16	
		人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16	
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法の領域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
	社会の理解	保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		公衆衛生	講義	1	16					1	16	
	基礎合計			8	170	2	32	4	64	14	266	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓諸器官の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓諸器官の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ（四肢体幹の運動）	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		（小計）			17	412	0	0	0	0	17	412
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30	
		臨床心理	講義			1	16			1	16	
		病理	講義			1	16			1	16	
		内科と理学療法	講義			1	30			1	30	
		老年障害と理学療法	講義			1	16			1	16	
		整形外科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		神経内科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		精神医学と理学療法	講義					2	30	2	30	
		小児科と理学療法	講義					1	16	1	16	
		一般臨床医学と理学療法	講義			1	30			1	30	
		（小計）			1	30	11	204	3	46	15	280
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
		（小計）	2	32	0	0	2	30	4	62		
	専門基礎分野合計			20	474	11	204	5	76	36	754	
	専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
			理学療法研究法	講義			2	30			2	30
			（小計）	3	60	3	60	0	0	6	120	
		理学療法管理学	理学療法管理学	講義					2	30	2	30
			（小計）	0	0	0	0	2	30	2	30	
		理学療法評価学	理学療法評価概論	講義	1	16					1	16
			理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅲ	演習			1	30			1	30
			理学療法評価Ⅳ	演習			1	30			1	30
			理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44
			（小計）	3	104	2	60	1	44	6	208	
		理学療法治療学	運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30
			運動療法Ⅱ	演習			2	30			2	30
運動療法Ⅲ			演習					1	30	1	30	
物理療法			演習			1	30			1	30	
日常生活活動			講義			1	30			1	30	
日常生活活動演習			演習					3	48	3	48	
装具学			講義			1	30			1	30	
義肢学			講義					1	30	1	30	
疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）			演習					3	48	3	48	
疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）			講義					1	16	1	16	
理学療法演習			実習					1	44	1	44	
理学療法総合理解Ⅰ			演習	1	30					1	30	
理学療法総合理解Ⅱ			演習			1	16			1	16	
理学療法総合理解Ⅲ			演習					1	16	1	16	
理学療法特論			演習					2	60	2	60	
総合理学療法Ⅰ			実習	1	30					1	30	
総合理学療法Ⅱ			実習			1	30			1	30	
総合理学療法Ⅲ			実習					1	44	1	44	
総合理学療法Ⅳ			演習					1	30	1	30	
（小計）			3	90	16	310	15	366	34	766		
地域理学療法		基本動作支援技術	演習	1	30					1	30	
		地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30	
		生活環境論	講義					1	16	1	16	
		（小計）	1	30	1	30	1	16	3	76		
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405	
		臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45	
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405	
		（小計）	1	45	10	450	9	405	20	900		
専門分野合計			11	329	32	910	28	861	71	2100		
必修科目授業合計			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		
選択科目授業合計				0		0		0		0		
卒業に必要な総授業時間数			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療職としての接遇・対応で配慮すべき点について学習する。

II 到達目標

医療職としての接遇・対応を実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	現代社会の人間関係
2	異文化間コミュニケーション
3	異世代間コミュニケーション タイプ別人間関係
4	多職種とのコミュニケーション 価値観
5	多様な人間関係 初対面の人との関わり
6	専門職として期待される人間関係 ホスピタリティ
7	コミュニケーション(話し方・聴き方) ストレス(ストレッサー、対処法)
8	まとめ

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	保健体育Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

グループ活動を通して、主体的な行動、計画性について再学習する。

II 到達目標

グループ活動を実践し、主体的、計画的に行動できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	グループディスカッション①
3	グループディスカッション②
4	グループディスカッション③
5	フィールドワーク①
6	フィールドワーク②
7	フィールドワーク③
8	フィールドワーク④

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

心理学で学んだ内容を加味し、心理検査法および心理療法について学習する。

II 到達目標

上記内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床心理とは
2	投影法
3	質問紙法、作業検査法
4	知能検査
5	特殊知能検査
6	心理療法①
7	心理療法②
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

リハベーシック 心理学・臨床心理学第2版(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	病理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	長谷川 真也	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

主要な病態(炎症、感染、腫瘍等)について、その病因と病理学的変化を学習する。

II 到達目標

主要な病態について、病因、病理学的変化を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	序論(病理学とは) 先天異常
2	代謝異常 炎症と免疫、膠原病
3	腫脹 皮膚・爪の構造と機能 老化と死
4	循環器系、血液造血器系の疾患
5	呼吸器系、消化器系の疾患
6	胃・泌尿器・生殖器の疾患
7	内分泌系疾患
8	脳神経・筋疾患

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野】病理学 第5版(医学書院)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	内科と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

内部障害を引き起こす主な疾患およびがん関連障害の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器疾患 総論
2	呼吸器疾患1
3	呼吸器疾患2
4	呼吸器疾患3
5	循環器疾患 総論
6	循環器疾患1
7	循環器疾患2
8	循環器疾患3
9	代謝疾患 総論
10	代謝疾患1
11	胆嚢、膵臓、肝臓疾患
12	消化器疾患、腎臓疾患
13	血液・造血疾患、内分泌系疾患
14	免疫疾患、感染症、リスク管理
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる<vol.2> 第5版 循環器(メディックメディア)
 病気がみえる<vol.3> 第5版 糖尿病・代謝・内分泌(メディックメディア)
 病気がみえる<vol.4> 第4版 呼吸器(メディックメディア)
 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	老年期障害と理学療法	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	長谷川 真也	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

老年期障害(褥瘡を含む)の病因、病態生理、症候、診断と治療、高齢者医療における注意点について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	加齢と老化
2	加齢に伴う心身機能面の変化 1
3	加齢に伴う心身機能面の変化 2 高齢者に多い疾患の病理
4	高齢者に多い疾患1
5	高齢者に多い疾患2
6	高齢者に多い疾患3
7	高齢者の理学療法
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野】 老年学 第6版

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	整形外科と理学療法	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	整形外科とは 運動器の構造と機能、疾患の成り立ち	16	前半まとめ
2	関節リウマチとその類縁疾患	17	診断・治療 総論
3	関節疾患1 総論	18	肩関節疾患の診断と治療
4	関節疾患2 変形性股関節症、変形性膝関節症、その他の関節症	19	膝関節疾患の診断と治療1
5	外傷 総論	20	膝関節疾患の診断と治療2
6	外傷1 骨折、脱臼 総論、上肢の骨折	21	股関節疾患の診断と治療 脊椎疾患の診断と治療
7	外傷2 骨盤・下肢の骨折	22	肘関節疾患の診断と治療 手関節・手の疾患の診断と治療
8	外傷3 体幹の骨折、脊椎・脊髄損傷、小児の骨折	23	外傷の診断と治療
9	末梢神経障害1 総論、外傷性末梢神経損傷	24	関節リウマチの診断と治療 後半まとめ
10	末梢神経障害2 絞扼性障害		
11	スポーツ外傷・障害1 スポーツ外傷		
12	スポーツ外傷・障害2 スポーツ障害		
13	その他の整形外科疾患1 脊椎疾患、上肢の疾患		
14	その他の整形外科疾患2 下肢の疾患、骨代謝障害、骨端症・骨壊死		
15	その他の整形外科疾患3 骨腫瘍、切断、先天性障害、熱傷		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる＜Vol.11＞第2版 運動器・整形外科(メディックメディア)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	神経内科と理学療法	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

中枢神経、および末梢神経・筋の障害を引き起こす疾患および痛みを引き起こす疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	中枢神経系の解剖と機能	16	変性疾患、脱髄疾患
2	神経学的診断法,画像診断,神経症候学1(意識障害)	17	Parkinson病
3	神経症候学2(錐体路徴候)	18	脊髄損傷1
4	神経症候学3(錐体外路徴候)	19	脊髄損傷2
5	神経症候学4(運動失調)	20	筋疾患
6	神経症候学5(感覚障害)	21	小児神経疾患
7	神経症候学6(失語症)	22	末梢神経損傷
8	神経症候学7(失認、失行)	23	中毒、てんかん
9	神経症候学8(記憶、注意、遂行)	24	まとめ
10	神経症候学9(構音障害・嚥下)		
11	廃用症候群と誤用症候群、合併症		
12	脳血管障害1		
13	脳血管障害2		
14	認知症		
15	脳腫瘍、外傷性損傷		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野】神経内科学 第6版
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	一般臨床医学と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

疾病の診断(生化学的検査、画像検査等)、臨床薬学、救急医学、栄養学の基礎について学習する。

II 到達目標

上記内容についてリハビリテーション・理学療法における活用方法や影響を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	画像診断 総論 X線単純画像、CT画像、MRI画像の特徴
2	画像診断 各論1 神経疾患の画像読解1
3	画像診断 各論2 神経疾患の画像読解2
4	画像診断 各論3 整形外科疾患の画像読解
5	画像診断 各論4 内科疾患の画像読解
6	薬理学1 血液、骨粗鬆症、脂質異常症、糖尿病に作用する薬物
7	薬理学2 腎機能障害、血圧調整に作用する薬物
8	薬理学3 呼吸・循環器障害に作用する薬物
9	薬理学4 関節リウマチ、パーキンソン病に作用する薬物
10	薬理学5 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物①
11	薬理学6 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物②
12	生化学的検査
13	栄養学の基礎、栄養障害
14	栄養療法
15	医療人として必要な応急処置法、心肺蘇生法(BLS)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

15レクチャーシリーズリハビリテーションテキスト 画像評価学(中山書店)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床運動学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	黒木 真登	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

基本姿勢および基本動作の観察・分析手法を学習する。
 主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の観察および分析について学習する。

II 到達目標

主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の特徴、観察および分析のポイントが説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床における動作分析
2	姿勢制御のバイオメカニズム
3	姿勢制御のバイオメカニズム
4	寝返り動作の概要・分析
5	寝返り動作の分析・評価
6	起き上がり動作の概要・分析
7	起き上がり動作の分析・評価
8	寝返り、起き上がり動作の誘導
9	起立・着座動作の概要・分析
10	起立・着座動作の分析・評価
11	起立・着座動作の誘導
12	歩行の概要・分析
13	歩行の分析
14	歩行の分析・評価
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(メジカルビュー社)
 基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法研究法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

研究の意義、研究手法、研究計画、研究結果のまとめ方について学習する。

II 到達目標

研究内容に対する研究手法の選び方を説明できる。
テーマを決めそれに対する研究計画案を立案できる。

III 学習内容(シラバス)

1	研究とは、研究法を学ぶ必要性、研究倫理
2	研究デザイン
3	統計手法
4	論文の検索方法と読み方
5	論文抄読 演習1
6	研究計画①
7	研究計画②
8	研究成果のまとめ方①
9	研究成果のまとめ方②
10	研究成果のまとめ方③
11	研究考察①
12	研究考察②
13	研究考察③、発表練習
14	研究発表会1
15	研究発表会2

IV 成績評価

発表にて評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程・臨床推論を学習する。
整形外科的検査を修得する。

II 到達目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
骨関節疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。
整形外科的検査について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	骨関節疾患における情報収集
2	骨関節疾患における医療面接
3	整形外科的テスト 1
4	整形外科的テスト 2
5	整形外科的テスト 3
6	形態計測 1
7	形態計測 2
8	ROM-T 1
9	ROM-T 2
10	MMT 1
11	MMT 2
12	ケーススタディ1
13	ケーススタディ2
14	ケーススタディ3
15	まとめ

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅳ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

神経疾患(主に脳卒中)に対する理学療法評価過程・評価技術・臨床推論を学習する。

II 到達目標

神経疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
神経疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	神経疾患における情報収集
2	神経疾患における医療面接
3	症状、障害と検査① 反射検査 筋緊張検査
4	症状、障害と検査② 感覚検査
5	症状、障害と検査③ 脳神経検査
6	症状、障害と検査④ 協調性(運動失調)検査
7	症状、障害と検査⑤ バランス検査
8	脳卒中片麻痺の評価 SIASの理論と評価①
9	脳卒中片麻痺の評価 SIASの理論と評価②
10	パーキンソン症候群の評価 運動失調の評価
11	神経疾患と動作分析
12	神経疾患とADL
13	高次脳機能検査
14	ケーススタディ1
15	ケーススタディ2

IV 成績評価

実技試験にて評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	運動療法Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

協調性改善運動、バランス練習、持久力増強運動、基本動作練習について学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の運動療法について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動の調節、反射階層理論、運動の学習
2	運動時の呼吸循環応答、持久力
3	協調性改善運動 1 協調性運動の原理、運動失調
4	協調性改善運動 2 Frenkel体操、重錘負荷、弾性緊縛帯
5	協調性改善運動 3 固有受容性神経筋促通法(PNF)
6	バランス練習 1 バランスとは
7	バランス練習 2
8	バランス練習 3 器具を用いた方法(DYJOCエクササイズなど)
9	持久力増強運動 1 運動負荷試験と運動処方
10	持久力増強運動 2
11	基本動作練習 1
12	基本動作練習 2
13	基本動作練習 3
14	理学療法上の問題点、目標と運動療法の選択・適応
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	物理療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	安岡 裕輔	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

物理療法の基礎、物理療法の種類および病態・障害に対する適応と禁忌、実施方法について学習する。

II 到達目標

物理療法の種類、病態・障害に対する適応と禁忌について説明できる
基本的な物理療法について実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	温熱療法1
2	温熱療法2
3	寒冷療法1
4	寒冷療法2
5	超音波療法1
6	超音波療法2
7	水治療法1
8	水治療法2
9	電気刺激療法1
10	電気刺激療法2
11	光線療法1
12	光線療法2
13	牽引療法1
14	牽引療法2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	日常生活活動	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	武田 夢人	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

日常生活活動(ADL)の概念と範囲(基本的ADL,応用的ADL)、ADLの評価方法(Barthel Index、FIM等)、ADL制限と福祉用具の適応について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・ADLの概念と範囲
2	ADL評価評価の目的と実際
3	ADL評価法1(Barthel Index・その他)
4	ADL評価法2(FIM)
5	ADL評価法3(FIM)
6	ADLの運動学と障害学1(運動発達の観点からの運動学)
7	ADLの運動学と障害学2(ADLの運動学的分析)
8	ADLの運動学と障害学3(ADLの運動学的分析)
9	生活環境と生活関連活動1(生活関連活動の概念)
10	生活環境と生活関連活動2(生活環境の評価と問題解決のアルゴリズム)
11	ADLを支援するリハビリテーション機器1(ADLと車椅子)
12	ADLを支援するリハビリテーション機器2(ADLと自助具・補装具)
13	ADLを支援するリハビリテーション機器3(ADLと自助具・補装具)
14	疾患別ADLの評価と指導の実際1(脳血管疾患)
15	疾患別ADLの評価と指導の実際2(人工関節術後)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	装具学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	戸田 伸	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

機能低下および変形に対する装具療法の適応および調整方法について学習する。

II 到達目標

装具療法の適応および調整方法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	装具、装具療法とは
2	下肢装具の部品とその機能
3	短下肢装具
4	長下肢装具・股装具・膝装具
5	靴形装具
6	下肢装具のチェックアウト
7	体幹装具、側彎症装具
8	上肢装具と自助具
9	車椅子、歩行補助具
10	疾患別装具の処方 1 脳卒中片麻痺の装具
11	疾患別装具の処方 2 整形外科疾患の装具
12	疾患別装具の処方 3 関節リウマチの装具
13	疾患別装具の処方 4 対麻痺・小児の装具
14	疾患別装具の処方 症例演習
15	まとめ 装具学総括

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	阿久澤 直樹	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

骨関節疾患（骨折、変形性関節症、関節リウマチ等）に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容（シラバス）

1	総論 骨関節疾患に対する理学療法	16	脊椎疾患 評価と治療
2	組織再生・修復と術後管理（痛み・腫脹・浮腫）	17	スポーツ外傷・靱帯損傷
3	骨折と脱臼 総論	18	靱帯損傷 評価と治療
4	上肢骨折・下肢骨折	19	肩関節疾患
5	高齢者の4大骨折 評価と治療1	20	肩関節疾患 評価と治療
6	大腿骨頸部骨折	21	関節リウマチ
7	高齢者の4大骨折 評価と治療2	22	関節リウマチ 評価と治療
8	変形性股・膝関節症 総論	23	症例演習1
9	人工股・膝関節置換術	24	症例演習2
10	変形性股関節症 評価と治療		
11	人工股関節置換術 評価と治療		
12	変形性膝関節症 評価と治療		
13	人工膝関節置換術 評価と治療		
14	脊椎疾患1 ヘルニア、根症状		
15	脊椎疾患2 脊髄症状		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

運動器疾患の治療とリハビリテーション（メジカルビュー社）

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	奥平 貴仁	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

脳血管障害に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

脳卒中の病期別理学療法介入について理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 脳卒中の概要	16	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)②
2	脳卒中の理学療法概論	17	脳卒中に対する理学療法(筋力に対するアプローチ)
3	脳卒中の理学療法評価	18	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)①
4	脳卒中の理学療法評価演習①	19	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)②
5	脳卒中の理学療法評価演習②	20	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)①
6	脳卒中の理学療法(急性期)①	21	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)②
7	脳卒中の理学療法(急性期)②	22	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)③
8	脳卒中の理学療法(回復期)①	23	脳卒中に対する理学療法(ADLに対するアプローチ)
9	脳卒中の理学療法(回復期)②	24	まとめ
10	脳卒中の理学療法(維持期)①		
11	脳卒中の理学療法(維持期)②		
12	片麻痺に対する装具、自助具		
13	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)①		
14	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)②		
15	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)①		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

脳卒中ビジュアルテキスト 第4版(医学書院)
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	新井 啓介 他	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

神経筋疾患(パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症等)および脊髄損傷に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、神経筋疾患の概要1	16	ギランバレー症候群、シャルコーマリー・トウース病に対する評価と理学療法2
2	神経筋疾患の概要2	17	神経筋接合部疾患、重症筋無力症に対する評価と理学療法1
3	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法1	18	神経筋接合部疾患、重症筋無力症に対する評価と理学療法2
4	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法2	19	筋ジストロフィーに対する評価と理学療法
5	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法3	20	脊髄損傷の概要・特徴
6	パーキンソン病、パーキンソン症候群に対する評価と理学療法4	21	脊髄損傷に対する評価・理学療法1
7	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法1	22	脊髄損傷に対する評価・理学療法2
8	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法2	23	疼痛、めまいに対する理学療法
9	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法3	24	まとめ
10	脊髄小脳変性症に対する評価と理学療法4		
11	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法1		
12	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法2		
13	脱髄性疾患に対する評価と理学療法1		
14	脱髄性疾患に対する評価と理学療法2		
15	ギランバレー症候群、シャルコーマリー・トウース病に対する評価と理学療法1		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	理学療法総合理解Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

臨床医学、基礎評価、領域別理学療法のつながりを復習し、臨床における具体的な理学療法について理解する。

II 到達目標

2学年で学習する科目について問題演習を通して理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床医学 演習1
2	臨床医学 演習2
3	臨床医学 演習3
4	基礎PT学 演習1
5	基礎PT学 演習2
6	疾患別PT学 演習1
7	疾患別PT学 演習2
8	疾患別PT学 演習3

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門基礎分野 臨床医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門分野 障害別PT治療学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 専門基礎分野 基礎医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 専門分野 基礎PT学(医歯薬出版)
 配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	総合理学療法Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

臨床実習Ⅱに向けた準備として知識及び技能の総復習を行う。
特に検査測定の実施と結果の理解および理学療法治療介入計画の立案について理解を深める。

II 到達目標

臨床実習Ⅱに必要な知識と技能を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法評価の流れ、臨床思考過程が理解・実践できる
2	脳血管疾患(片麻痺)に対する評価1
3	脳血管疾患(片麻痺)に対する評価2
4	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する評価1
5	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する評価2
6	脳血管疾患(片麻痺)に対する理学療法治療介入計画の立案
7	整形外科疾患(大腿骨頸部骨折)に対する理学療法治療介入計画の立案
8	総合的な理学療法検査測定～治療介入計画立案のまとめ
9	理学療法評価演習課題の説明、症例紹介、グループ分け
10	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習1
11	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習2
12	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習3
13	脳血管疾患、整形外科疾患に対する評価演習 模擬症例を設定した実技演習4
14	実技演習の振り返り1
15	実技演習の振り返り2

IV 成績評価

筆記試験(60%)および実技試験(40%)の合算により評価する。

V 教科書

症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	地域リハビリテーション (地域包括ケア、介護予防)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

地域リハビリテーションの概念、地域における活動、地域包括ケアにおける理学療法士の役割、健康維持・増進や介護予防、終末期医療における理学療法士の活動について学習する。

II 到達目標

上記内容を理解し、地域における理学療法士の役割、活動内容を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	地域リハビリテーションの成り立ち 地域包括ケアシステム 在宅生活の支援技術・社会資源について
2	介護保険制度
3	医療保険制度・病床機能
4	ケアマネジメント・リハビリテーションマネジメント
5	通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・入所リハビリテーション
6	介護予防と高齢者施策
7	介護予防事業の実際
8	障害者施策(障害者総合支援法など)
9	障害者の自立と支援方法 終末期および小児領域における地域リハビリテーション
10	地域リハビリテーションにおけるリスク管理
11	フィールドワーク 概要説明
12	フィールドワーク事前準備
13	フィールドワーク1
14	フィールドワーク2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験(70%)および課題レポート(30%)の合算により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	9単位・405時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療施設等において対象者の評価（検査測定、問題点抽出および目標設定）、理学療法介入計画立案について臨床実習指導者の管理・監督の下で体験し学習する。
医療チームの一員として果たすべき役割について学習する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

実習は学内事前実習(7日間)、施設実習(7週間)、学内事後実習(3日間)をもって構成する。

※詳細は臨床実習Ⅱ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

学内事前実習評価、施設実習評価、学内事後実習評価を総合的に勘案して決定する。
実習事前・事後評価は、基礎学力試験、客観的臨床能力試験(OSCE)実習後発表会等を用いて評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅱ手引き

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

2学年	科目	臨床実習Ⅲ (地域リハビリテーション実)	単位・時間数	1単位・45時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

通所リハビリテーション施設および訪問リハビリテーション施設において利用者に対する理学療法を見学し、理学療法の一部について体験する。
地域包括システムに関与する関連専門職の役割を理解する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

学校が指定した通所リハビリテーション施設または訪問リハビリテーション施設において、5日間の見学実習を行う。

※詳細は臨床実習Ⅲ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、デイリーノート、見学・体験報告書等により総合的に判断して評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅲ手引き

【メモ】

講義要綱

2025年度

夜間課程 3学年

学年担任 田中 靖子



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目 次

夜間課程 単位表		4
夜間課程 3学年		
医学英語Ⅱ		5
医療統計		6
人体とバイオメカニクス		7
関連法規		8
精神医学と理学療法		9
小児科と理学療法		10
疾病予防と健康管理		11
理学療法管理学		12
理学療法評価Ⅴ		13
運動療法Ⅲ		14
日常生活活動演習		15
義肢学		16
疾患別理学療法Ⅳ(内部障害)		17
疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)		18
理学療法演習		19
理学療法総合理解Ⅲ		20
理学療法特論		21
総合理学療法Ⅲ		22
総合理学療法Ⅳ		23
生活環境論		24
臨床実習Ⅳ		25

医療専門課程理学療法学科（夜間課程）

	科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数
				単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間		
基礎分野	科学的思考の基盤	医学英語Ⅰ	講義	1	16					1	16
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30
		医療統計	講義					1	16	1	16
		人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16
		関連法規	講義					1	16	1	16
		理学療法の領域と位置付け	講義	1	16					1	16
		心理	講義	1	16					1	16
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	1	30					1	30
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	16			1	16
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30
		保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16
	社会の理解	公衆衛生	講義	1	16					1	16
	基礎合計			8	170	2	32	4	64	14	266
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓諸器官の構造）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓諸器官の機能）	講義	1	30					1	30
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48
		運動学Ⅰ（四肢体幹の運動）	講義	3	48					3	48
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30
		運動学演習	演習	1	30					1	30
		人間発達	講義	1	16					1	16
		（小計）		17	412	0	0	0	0	17	412
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30
		臨床心理	講義			1	16			1	16
		病理	講義			1	16			1	16
		内科と理学療法	講義			1	30			1	30
		老年障害と理学療法	講義			1	16			1	16
		整形外科と理学療法	講義			3	48			3	48
		神経内科と理学療法	講義			3	48			3	48
		精神医学と理学療法	講義					2	30	2	30
		小児科と理学療法	講義					1	16	1	16
		一般臨床医学と理学療法	講義			1	30			1	30
		（小計）		1	30	11	204	3	46	15	280
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30
		（小計）		2	32	0	0	2	30	4	62
	専門基礎分野合計			20	474	11	204	5	76	36	754
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
		障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
		臨床運動学	演習			1	30			1	30
		理学療法研究法	講義			2	30			2	30
		（小計）		3	60	3	60	0	0	6	120
	理学療法管理学	理学療法管理学	講義					2	30	2	30
		（小計）		0	0	0	0	2	30	2	30
	理学療法評価学	理学療法評価概論	講義	1	16					1	16
		理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44
		理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44
		理学療法評価Ⅲ	演習			1	30			1	30
		理学療法評価Ⅳ	演習			1	30			1	30
		理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44
		（小計）		3	104	2	60	1	44	6	208
	理学療法治療学	運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30
		運動療法Ⅱ	演習			2	30			2	30
		運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30
		物理療法	演習			1	30			1	30
		日常生活活動	講義			1	30			1	30
		日常生活活動演習	演習					3	48	3	48
		装具学	講義			1	30			1	30
		義肢学	講義					1	30	1	30
		疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）	演習			3	48			3	48
		疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）	演習					3	48	3	48
		疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）	講義					1	16	1	16
		理学療法演習	実習					1	44	1	44
		理学療法総合理解Ⅰ	演習	1	30					1	30
		理学療法総合理解Ⅱ	演習			1	16			1	16
		理学療法総合理解Ⅲ	演習					1	16	1	16
		理学療法特論	演習					2	60	2	60
		総合理学療法Ⅰ	実習	1	30					1	30
		総合理学療法Ⅱ	実習			1	30			1	30
		総合理学療法Ⅲ	実習					1	44	1	44
		総合理学療法Ⅳ	演習					1	30	1	30
		（小計）		3	90	16	310	15	366	34	766
	地域理学療法	基本動作支援技術	演習	1	30					1	30
		地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30
		生活環境論	講義					1	16	1	16
		（小計）		1	30	1	30	1	16	3	76
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405
		臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405
		（小計）		1	45	10	450	9	405	20	900
	専門分野合計			11	329	32	910	28	861	71	2100
必修科目授業合計			39	973	45	1146	37	1001	121	3120	
選択科目授業合計				0		0		0		0	
卒業に必要な総授業時間数			39	973	45	1146	37	1001	121	3120	

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	医学英語Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

英文論文を抄読し、医学英語の表現について学習する。

II 到達目標

医学英語の表現について、大まかな内容を把握できる。

III 学習内容(シラバス)

1	英語論文の読み方
2	脳卒中文献抄読1
3	脳卒中文献抄読2
4	変形性膝関節症文献抄読1
5	変形性膝関節症文献抄読2
6	パーキンソン症候群文献抄読1
7	パーキンソン症候群文献抄読2
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	医療統計	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

統計手法、統計結果の読解、表計算ソフトとを利用した統計処理について学習する。

II 到達目標

表計算ソフトを利用して簡単なデータの統計処理を実践できる。
理学療法士が研究で活用する基礎的な統計手法を理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	合計、平均、グラフ作成等の基本的なデータ処理を学習する。
2	数式やグラフを用いてデータを比較する。
3	データの種類と尺度水準を学習する。
4	平均と度数分布、分散と標準偏差の違いを学習する。
5	2群の差の検定
6	相関関係
7	演習①
8	演習②

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	人体とバイオメカニクス	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

物理学および力学の基礎的概念、生体と力学、人体における力について学習する。

II 到達目標

人体の運動の基礎となる力学について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	力の合成と分解、三角関数
2	生体におけるテコ
3	重心の求め方、重心の速度・加速度
4	床反力と重心加速度
5	関節モーメントと筋活動
6	歩行のバイオメカニクス①
7	歩行のバイオメカニクス②
8	歩行のバイオメカニクス③

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント、基礎運動学 第7版(医歯薬出版)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	関連法規	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

関連法規(医療法、理学療法士作業療法士法等)について学習する。

II 到達目標

関連法規の概要について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法士、作業療法士法
2	理学療法士、作業療法士法
3	医療保険と理学療法
4	医療保険とリハビリテーション
5	介護保険とリハビリテーション
6	介護保険と理学療法
7	施設基準と診療報酬制度1
8	施設基準と診療報酬制度2

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	精神医学と理学療法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

精神科領域の理学療法対象疾患に関する、精神活動や行動およびその治療法を学び、理学療法介入時に対応できるようになる。
主に統合失調症・気分障害・てんかん・アルコール関連疾患について学ぶ。

II 到達目標

理学療法の臨床場面において、精神科領域の対象者に対応できる知識と介入対処方法を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 精神医学について
2	心理検査
3	神経症とストレス関連障害
4	心身症
5	統合失調症①
6	統合失調症②
7	気分障害
8	外因性精神障害
9	症状性精神障害
10	物質関連障害群・物質依存症
11	てんかん
12	その他の精神障害
13	精神科の治療法①
14	精神科の治療法②
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	小児科と理学療法	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

小児の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	小児科学総論、成長と発達と反射
2	新生児疾患、核黄疸、脳性麻痺
3	先天異常と遺伝病、血友病、貧血、染色体異常
4	進行性筋ジストロフィー
5	小児の感染症①(細菌性とウイルス性)
6	小児の感染症②(胎児期～乳幼児期～学童期)
7	胎児循環、チアノーゼ(Down症に合併)、ファローの4徴候
8	先天性心疾患、消化器疾患

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	疾病予防と健康管理	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

予防の概念を理解し、健康管理のあり方、ストレスと健康の関係、行動変容、個別指導・集団指導について学習する。予防分野における理学療法士の役割の理解を深める。

II 到達目標

疾病予防、健康管理の重要性、それに働きかけるための方法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	予防の概念 一次予防・二次予防・三次予防
3	健康管理の在り方
4	行動変容について
5	個別指導・集団指導について
6	生活習慣病が関連する疾病の予防①
7	生活習慣病が関連する疾病の予防②
8	生活習慣病が関連する疾病の予防③
9	認知症予防①
10	認知症予防②
11	運動器症候群の予防①
12	運動器症候群の予防②
13	フレイルの予防
14	ストレスと健康の関係
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	理学療法管理学	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

理学療法部門管理、理学療法倫理、理学療法教育について学習する。

II 到達目標

上記の内容について理解し、理学療法士として必要な専門性および職業倫理を身につける。

III 学習内容(シラバス)

1	総論
2	病因の分類と組織
3	専門職とチームケア
4	社会保障のしくみ
5	医療保険制度
6	介護保険制度
7	診療・介護報酬と収益構造
8	保健・医療・介護・福祉の連携
9	業務管理
10	情報管理
11	医療安全とリスク管理
12	感染症管理
13	権利擁護と職業倫理
14	教育管理
15	理学療法士の政治・政策への関与

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

理学療法テキスト 理学療法管理学(15レクチャーシリーズ)(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	理学療法評価Ⅴ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

理学療法評価概論および理学療法評価Ⅰ～Ⅳの内容について再学習し、理解を深める。

II 到達目標

模擬症例(骨関節疾患、中枢神経疾患および神経筋疾患)に対する理学療法評価を実践できる。
評価内容に対して適切な考察および臨床推論ができる。

III 学習内容(シラバス)

1	模擬症例(骨関節疾患)に対する理学療法評価1	16	グループワーク1 模擬症例(骨関節疾患)に対する臨床推論
2	模擬症例(骨関節疾患)に対する理学療法評価2	17	グループワーク2 模擬症例(骨関節疾患)に対する臨床推論
3	模擬症例(骨関節疾患)に対する臨床推論1	18	グループワーク3 模擬症例(中枢疾患)に対する臨床推論
4	模擬症例(骨関節疾患)に対する臨床推論2	19	グループワーク4 模擬症例(中枢疾患)に対する臨床推論
5	模擬症例(骨関節疾患)に対する臨床推論3	20	グループワーク5 模擬症例(神経筋疾患)に対する臨床推論
6	模擬症例(中枢疾患)に対する理学療法評価1	21	グループワーク6 模擬症例(神経筋疾患)に対する臨床推論
7	模擬症例(中枢疾患)に対する理学療法評価2	22	まとめ
8	模擬症例(中枢疾患)に対する臨床推論1		
9	模擬症例(中枢疾患)に対する臨床推論2		
10	模擬症例(中枢疾患)に対する臨床推論3		
11	模擬症例(神経筋疾患)に対する理学療法評価1		
12	模擬症例(神経筋疾患)に対する理学療法評価2		
13	模擬症例(神経筋疾患)に対する臨床推論1		
14	模擬症例(神経筋疾患)に対する臨床推論2		
15	模擬症例(神経筋疾患)に対する臨床推論3		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
統合と解釈がよくわかる 実践!理学療法評価学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	運動療法Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井啓介 奥平貴仁 他	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

運動療法のいくつかの体系化された方法論(概念・手法・演習)を学習する。特に神経系運動療法の基礎(感覚受容から中枢そして効果器)を再学習して、それらを応用した運動療法手技を体験し修得する。

II 到達目標

いくつかの体系された運動療法の理論(根拠)を理解し、理学療法介入に選択した理由が説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 神経生理的アプローチ 1
2	神経生理的アプローチ 2
3	神経生理的アプローチ 3
4	神経生理的アプローチ 4
5	神経生理的アプローチ 5
6	神経生理的アプローチ 6
7	神経生理的アプローチ 7
8	関節、筋アプローチ 1
9	関節、筋アプローチ 2
10	関節、筋アプローチ 3
11	関節、筋アプローチ 4
12	関節、筋アプローチ 5
13	関節、筋アプローチ 6
14	関節、筋アプローチ 7
15	まとめ

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	日常生活活動演習	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	奥平 貴仁 他	担当教員	奥平 貴仁

I 教育目標

主要な疾患(運動器障害、神経障害等)・病態・障害によるADL制限の評価、指導方法について学習する。

II 到達目標

主要な疾患・病態・障害に対するADL制限の評価、指導方法を説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	関節リウマチ患者の上肢機能とADL①(装具の適応)	16	脳血管障害患者のADL評価・指導③(移乗動作、移動動作)
2	関節リウマチ患者の上肢機能とADL②(自助具の適応)	17	脳血管障害患者のADL評価・指導④(トイレ動作など)
3	関節リウマチ患者のADL評価・指導①(基本動作)	18	変形性関節症患者のADL評価・指導①(起立・着座動作、移動動作)
4	関節リウマチ患者のADL評価・指導②(上肢を使った動作)	19	変形性関節症患者のADL評価・指導②(トイレ動作など)
5	脊髄損傷患者の上肢機能とADL①(上肢装具の適応)	20	ADL評価(動作の分析、課題の抽出) ICFとのつながり
6	脊髄損傷患者の上肢機能とADL②(自助具の適応)	21	Barthel indexによる評価
7	脊髄損傷患者のADL評価・指導①(寝返り動作)	22	FIMによる評価
8	脊髄損傷患者のADL評価・指導②(起き上がり動作)	23	ケーススタディ①
9	車いすの適応とチェックアウト	24	ケーススタディ②
10	シーティングポジショニング		
11	脊髄損傷患者のADL評価・指導③(移乗動作)		
12	脊髄損傷患者のADL評価・指導④(トイレ動作など)		
13	ADLと環境の関係性		
14	脳血管障害患者のADL評価・指導①(起き上がり動作、座位保持)		
15	脳血管障害患者のADL評価・指導②(起立・着座動作、立位保持)		

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	義肢学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	戸田 伸	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

切断、四肢欠損に対する義肢の適応および義肢の構造的特徴について学習する。

II 到達目標

義肢の適応、構造的特徴について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	切断と義肢の基礎知識
2	早期義肢装着と義足適合の流れーアライメントの概念ー
3	大腿切断・膝離断の基本と義足構造
4	大腿義足・膝義足のアライメント
5	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造
6	下腿義足・サイム義足のアライメント
7	股離断・片側骨盤切除・足部切断の義足構造とアライメント
8	下肢切断の評価ー問題点の抽出とその統合ー
9	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法
10	切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点
11	義足装着理学療法と応用動作
12	義手の分類と構造・機能
13	上肢切断の評価と治療
14	義肢装具の支給体系とチームアプローチ
15	まとめ 義肢学総括

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	高橋 範行 他	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、腎疾患および悪性腫瘍に対する理学療法を学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	内部障害総論(内部障害とは、内部障害理学療法とは)	16	演習 呼吸理学療法1(呼吸介助法、呼吸筋リラクセーション)
2	循環器疾患の基礎(病態と画像所見)	17	演習 呼吸理学療法2(胸郭可動域訓練、体位排痰法)
3	循環器疾患の検査(心電図、不整脈)	18	演習 呼吸理学療法3(運動処方、ADL指導)
4	循環器疾患の評価(運動耐容能の評価)	19	演習 在宅酸素療法(HOT)
5	循環器疾患のリハビリテーション(運動処方)	20	演習 気道内分泌物吸引法1
6	代謝性疾患の基礎(病態、合併症)	21	演習 気道内分泌物吸引法2
7	代謝性疾患の評価	22	がんの基礎
8	代謝性疾患の理学療法(運動処方、足病変に対するフットケア)	23	がんのリハビリテーション
9	腎臓疾患の基礎(透析療法、ADL指導)	24	まとめ
10	腎臓疾患の評価		
11	腎臓疾患のリハビリテーション(運動処方、透析療法中におけるリスク管理)		
12	呼吸器疾患の基礎(閉塞性換気障害と拘束性換気障害、画像所見)		
13	呼吸器疾患の評価(フィジカルアセスメントなど)		
14	COPDの呼吸リハビリテーション		
15	肺炎等における長期臥床後の理学療法		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

最新理学療法学講座 内部障害理学療法学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

小児発達障害(脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症等)に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	発達障害 概論
2	脳性麻痺 総論
3	脳性麻痺 乳児期～幼児期への理学療法介入
4	脳性麻痺 学童期～成人期への理学療法介入
5	二分脊椎への理学療法介入
6	ダウン症候群への理学療法介入
7	筋ジストロフィーに対する理学療法介入
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

15レクチャー理学療法テキスト 小児理学療法学(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	理学療法演習	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

ウィメンズヘルス、スポーツ障害、老年期障害、予防分野、産業保健分野等に対する理学療法について理解する。

II 到達目標

上記の内容に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	リスク管理・術後管理	16	演習②
2	廃用症候群と理学療法	17	演習③
3	老年期障害における理学療法	18	演習④
4	嚥下障害の評価と治療介入	19	演習⑤
5	栄養障害の評価と治療介入	20	演習⑥
6	ウィメンズヘルスにおける理学療法①	21	演習⑦
7	ウィメンズヘルスにおける理学療法②	22	演習⑧
8	スポーツ障害と理学療法①		
9	スポーツ障害と理学療法②		
10	スポーツ障害と理学療法③		
11	スポーツ障害と理学療法④		
12	予防分野における理学療法		
13	産業保健分野における理学療法		
14	災害時のリハビリテーション		
15	演習①		

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	理学療法総合理解Ⅲ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

基礎医学、臨床医学、基礎理学療法、疾患別理学療法を復習し、理学療法士に必要な知識について再学習する。

II 到達目標

理学療法士に必要な総合的知識を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	基礎医学演習①
2	基礎医学演習②
3	臨床医学演習①
4	臨床医学演習②
5	基礎PT学演習①
6	基礎PT学演習②
7	疾患別PT学演習①
8	疾患別PT学演習②

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	理学療法特論	単位・時間数	2単位・60時間
	講師	田中 靖子 他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

理学療法を体系的に理解し、卒業研究を行う。

II 到達目標

研究室の教員の指導の下、卒業論文を作成する。

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法の今日の課題	16	研究演習12 ROMTについて
2	理学療法士が研究を行う意味	17	研究演習13 MMTについて
3	臨床研究の実際1	18	研究演習14 各種検査法について
4	臨床研究の実際2	19	研究演習15 ADLについて
5	研究演習1 解剖学について	20	研究演習16 運動療法について
6	研究演習2 生理学について	21	研究演習17 物理療法について
7	研究演習3 運動学について	22	研究演習18 装具療法について
8	研究演習4 発達について	23	研究演習19 義肢学について
9	研究演習5 病理について	24	研究演習20 環境設定について
10	研究演習6 骨関節疾患について	25	研究演習21 骨関節疾患理学療法介入について
11	研究演習7 神経筋疾患について	26	研究演習22 中枢神経疾患理学療法介入について
12	研究演習8 内部障害疾患について	27	研究演習23 神経筋疾患理学療法介入について
13	研究演習9 精神疾患について	28	研究演習24 内部障害理学療法介入について
14	研究演習10 リハビリテーション医学について	29	研究演習25 運動発達理学療法介入について
15	研究演習11 理学療法について	30	研究演習26 まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	総合理学療法Ⅲ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

臨床実習Ⅳに向けた準備として知識及び技能の総復習を行う。
特に経過の確認および効果判定をし、理学療法計画の再設定について理解を深める。

II 到達目標

臨床実習Ⅳに必要な知識と技能を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	検査・測定の復習1	16	Transfer、Push up
2	検査・測定の復習2	17	症例検討1 大腿骨頸部骨折に対する術後理学療法
3	評価計画立案演習	18	症例検討2 膝・下腿部の整形疾患に対する術後理学療法
4	検査測定、統合と解釈1	19	症例検討3 脳卒中片麻痺患者の早期理学療法
5	検査測定、統合と解釈2	20	症例検討4 脳卒中片麻痺患者の回復期理学療法
6	問題点抽出、目標設定	21	症例検討5 脳卒中片麻痺患者の歩行介助・歩行訓練
7	理学療法プログラム立案	22	運動療法と介助
8	効果判定		
9	ケースノートの作成方法、経過の追い方		
10	関節可動域運動		
11	伸張運動		
12	筋力増強運動		
13	持久力運動		
14	糖尿病の運動療法(運動強度)		
15	協調性運動、DYJOC訓練		

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	総合理学療法Ⅳ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

国家試験準備として、理学療法士に必要な知識、技能を総復習する。

II 到達目標

国家試験合格レベルの知識、技術について理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、学習の進め方
2	基礎医学分野 演習
3	臨床医学分野 演習
4	基礎PT学分野 演習
5	疾患別PT分野 演習
6	プレテスト①
7	プレテスト①
8	プレテスト①
9	プレテスト①
10	プレテスト①振り返り
11	プレテスト②
12	プレテスト②
13	プレテスト②
14	プレテスト②
15	プレテスト②振り返り まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2024 基礎医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 臨床医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2024 基礎PT学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 障害別PT治療学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	生活環境論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

住環境整備、福祉用具の適応、バリアフリー、ユニバーサルデザインの概念について学習する。

II 到達目標

障害特性に合わせた住環境整備、福祉用具案について説明できる。
バリアフリー、ユニバーサルデザインについて説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	環境とは 環境と動作の関係性
2	住宅改修
3	福祉用具
4	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、環境整備に関する法律
5	ケーススタディ①
6	ケーススタディ②
7	ケーススタディ③
8	ケーススタディ④

IV 成績評価

レポート課題により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)
Crosslink理学療法テキスト 地域理学療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

3学年	科目	臨床実習Ⅳ	単位・時間数	9単位・405時間
	講師	杉田 貴寛 他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療施設等において対象者の評価(検査測定、問題点抽出および目標設定)、理学療法介入体験および効果判定について臨床実習指導者の管理・監督の下で体験し学習する。
医療チームの一員として果たすべき役割について学習する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

実習は学内事前実習(7日間)、施設実習(7週間)、学内事後実習(3日間)をもって構成する。

※詳細は臨床実習Ⅳ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

学内事前実習評価、施設実習評価、学内事後実習評価を総合的に勘案して決定する。
実習事前・事後評価は、基礎学力試験、客観的臨床能力試験(OSCE)、実習後発表会等を用いて評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅳ手引き

【メモ】

